

災害からまもる

安全のための冊子

災害が起こった際に、お客様がどのような行動をとれば良いのか、またホームなどで電車との接触事故などの危険を避けるために注意して頂きたい行動について、日頃から知って頂くために、東京メトロは「安全ポケットガイド」、都営地下鉄は「防災ハンドブック」を各駅などで配布しています。

各配布物で案内されている身を守るための行動のうち一部を紹介します。

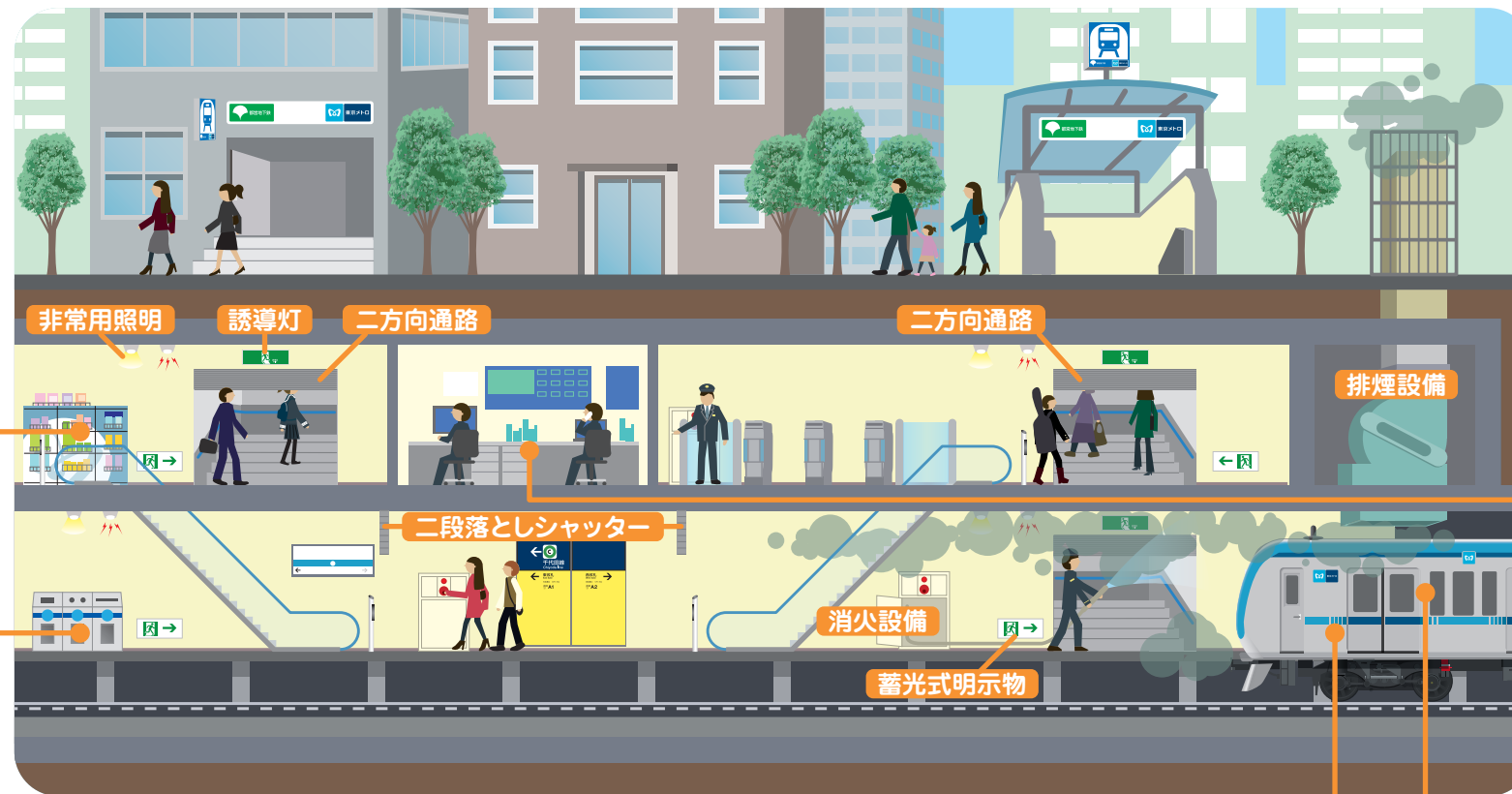
- 地震が起きた際に身を守るための行動
 - ・つり革などにつかまり、落下物に注意する
 - ・緊急放送や係員から案内があった場合、その指示に従って避難する
- 火災が起きた際に身を守るための行動
 - ・駅や電車で火災を発見したら、通報装置などで速やかに係員に連絡する
- ホームなどでお客様が危険を避けるために注意して頂きたい行動
 - ・スマートホンやゲーム機を使用しながらの歩行を止める
 - ・線路に落とし物をしてもし取りに降りたりせず、駅係員に依頼する



安全ポケットガイド
防災ハンドブック

火災への備え

2003（平成15）年2月に発生した韓国大邱の地下鉄火災事故を受け、改正された火災対策基準に基づき、設備の整備が進められています。



駅の火災対策

1.火災の際に被害の拡大を防ぐ設備

- 防煙垂れ壁
通路などをしきり、構内への煙の拡散を防ぎます。
- 二段落としシャッター
防煙シャッターが降りる途中で一度停止し、開いている部分から避難できるようになっています。
- 非常扉
防煙シャッター脇に非常扉が設置され、防煙シャッターが下まで降りた後でも避難できるようになっています。
- 二方向通路
一つの通路が使用できない場合に別の通路から避難できるよう、二方向通路が整備されています。
- 非常用電源・非常用照明・誘導灯
停電が起きた場合は、非常用電源によって非常用照明が点灯され、誘導灯により非常口が示されます。
- 蓄光式明示物
電気を使用せず発光する蓄光式明示物により、非常口が示されます。

2.防災管理室での集中管理

駅事務室内の防災管理室により駅構内が総合監視され、火災の際は、非常放送や駅係員によるお客様の避難誘導がされ、消火活動が迅速に行われます。

テロへの備え

全駅に防犯カメラや、中身が見えるゴミ箱を設置し、駅係員および警備員による駅構内の巡回を実施し、安全確保への取り組みが進められています。また、ポスターやテロップなどで、不審物の発見など、お客様のご協力を呼びかけています。



中身が見えるゴミ箱

異常時想定訓練

毎年、地震や水害等を想定して、災害が起きた場合のお客様の避難誘導・応急救護・現地対策本部の設置・消防署や警察署などと連携する訓練が実施されています。また、東京メトロと都営地下鉄の合同訓練が行われ、相互連携・異常時対応等の手順が確認されています。



訓練の様子

車両の火災対策

火災が起き難いよう難燃材・不燃材が使用され、万一発生した場合に備え、各車両に消火器が設置されています。避難の際は、車両間に設置された貫通扉で隣の車両に移動することができるようになっています。また、トンネル内など乗降口と壁面の隙間が狭い場所でも車両の外に避難できるように、電車の先頭および最後尾に非常扉が設置されています。



前面非常扉



貫通扉

お客様の安全確保

火災が発生した場合に、お客様がどうすれば良いかについて、安全のための冊子などで案内されています。また、乗務員や駅係員により、安全な場所への避難誘導が行われます。



非常通報機